High ♥ Line Wakabayashi
はいらいん若林
みんなでここさ　入らいん！

若林区まちづくり協議会会報　2023.3.1　Vol.26

若林区探訪 その12

新しい街並みと農地が残る歴史の町
遠見塚一～三丁目

地域の歴史を探り、そこで暮らす人々の今を知る若林区探訪：今回は、国道4号バイパスと宮城の萩大通りに挟まれて発展した遠見塚地区を紹介します。

寄稿 「遠見塚の原風景」高橋　定男

❶ 遠見塚小学校の桜と古墳　❷ 上空から見た遠見塚古墳
❸ 宮城の萩大通り　❹ 地区内用水路（仙台堀）

南小泉村に属していた遠見塚地区は、明治22年に周辺と併合して七郷村になり、昭和16年には、最終的に仙台市に編入されました。その後、時代を経て現在の遠見塚一丁目から三丁目の地名になりました。

地区内には、地名が由来である、遠見塚古墳（県内2位の規模、長さ110m、高さ6.5m）があります。その周辺地域は南小泉遺跡として、弥生時代からの集落や水田が広がっていた地域である可能性が高いとされています。

この地区に長くお住まいになっている高橋定男さんに、地区の今昔について寄稿していただきました。

かつてそこには、仙台の原風景がありました。田畑の風景から垣間見えた、自然を感じられる四季折々の動植物、特にホタルや赤トンボの乱舞、朝日や夕焼けの美しさがありました。

私が小学生の頃（1960年代初頭）、遠見塚と言えば「遠見塚古墳」しか思いつかない地名であり、古墳が地区のシンボルではありましたが、現在のように整備されておらず、民地の畑として活用されていました。以前の遠見塚地区はその殆どが農地で占められており、宮城の萩大通り（当時の幅員は狭小）沿いに住宅地が点在し、七郷堀から汲み上げられた用水路が東側にありました。その水路の川魚、ナマズの手掴み、屋敷林（イグネ）での昆虫採集、木の実、アケビ、グミ、野イチゴ等を取って食べたりもしました。

大規模な農家住宅が多く、かやぶき屋根も沢山ありました。また、畑での野菜収穫や田植え、稲刈り、脱穀、共同でのかやぶき屋根の葺き替え等も年中行事で行われていました。今はその面影を見ることはできません。

当時、お盆の期間の慣習として、大通りに面する各戸住宅所有者が「送り火」をした情景が忘れられません。道路照明も十分ではなかったので、送り火の灯りが通りを歩く人に安らぎを与えていました。

当該地区は、若林区制移行前は「南小泉字屋敷」という地名でしたが、現在の宮城の萩大通りを境にして、東側が遠見塚、西側が南小泉という地名になりました。その後、大通りの都市計画道路が完成し、遠見塚地区は大きな変貌を遂げました。かつての田畑風景は消失し、その土地は住宅地に変わりました。最近まで当時の風景を残していたのは、現在、スーパーマーケットがある場所です。イグネがあったあの風景が、遠見塚地区を象徴していたと言っても過言ではありません。

約60年前には想像もできない程に変貌した「遠見塚地区」の街並みを、今後も大事にしていきたいものです。

会報の愛称「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん（お入りください）」に英語のhigh（ハイ・高い）とline（ライン・路線、進路などの意）とをかさねあわせた造語です。温かさとより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

地域の話題

若林区の職人さん

◇◆仙台にただ一人残る筆職人　「大友毛筆」大友 博興さん◆◇

かつて仙台藩の鉄砲足軽三百人が居住した現在の三百人町に、代々お住まいの大友家の当主、大友博興さん。大友さんは、明治8年創業の「大友毛筆」の四代目で、藩主政宗公が、足軽の副業として筆作りを奨励して以来、四百年以上の歴史をもつ「仙台御筆」を作り続けて60年余。そして、今なお、先祖代々の伝統の技を守り伝える、仙台に、いや、宮城県にただ一人残る、筆職人さんです。

「税理士になりたかった」と語る大友さんは、三代目の父の早世で夢を諦め、家業を守るために、15歳で父の弟子に弟子入りして修行を重ね、25歳で四代目になったとのこと。お話を伺いながら、伝統の技術はもちろん、加えて、ご自身の芯の強さやひたむきさ、とりわけ、筆作りへのたゆまぬ努力があったからこそと、名工たる所以が納得できました。「客が気に入るまで作り直す」の言葉も圧巻でした。

日当たりのよい縁側で拝見した「仙台御筆」の数々。「筆に『御』がつくのは『仙台御筆』のみ」の証しのように、上品で美しく、その特徴である、材料へのこだわりや、16もの工程をすべて一人の職人がこなす丹念な作り方を、自ら誇っているかのように見え、すっかり魅了されました。

大友さんは、筆師としての厳しい鍛錬の傍ら、趣味として50年以上もコーラスを続け、今も団長を務めています。伝統ある合唱団の一員として活躍する、唯一無二の筆匠、大友さんの生き方に、深い感銘を受けました。

指先の感覚こそが筆職人の“いのち”

文化庁日本遺産認定の「仙台御筆」

「復興」から「まちづくり」へ 新展開のわらアート

2022年度のわらアートは、せんだい農業園芸センターで、9月25日から12月3日まで、3～5メートルの巨大恐竜作品3体と、1～2メートルの虎や猪などの動物作品4体の合計7作品を展示して、多くの方にご覧いただくことができました。

今年度は、魅力ある作品を展示できたことはもちろん、若林区沿岸部のまちづくりにも取り組みました。跡地利用で事業を起こした個人・団体・企業と連携し、地域の回遊性の拡大へとシフトしたのです。年間7万人が訪れるわらアートが沿岸部の玄関口となり、さらに、レストラン、フルーツ狩り、温泉、スポーツ、新鮮野菜の販売などの各施設へ足を延ばし、地域で活躍する人々とのつながりを作り出す活動の開始です。

2023年度は、4～6月に開催される「第40回全国都市緑化仙台フェア」の東部エリア会場のひとつであるせんだい農業園芸センターで、わらアートの展示を行います。全国から訪れるみなさまへ、震災と復興、まちづくりを伝える機会とし、わらアートが「復興のシンボル」から「まちづくりのシンボル」となり、全国発信の新展開となるよう活動してまいります。

せんだいわらアート実行委員会
委員長　広瀬　剛史

よみがえる屋台

若林区荒浜の地域資源を題材にした様々な企画を通じ、地域文化や自然との向き合い方を楽しみながら学べる機会をつくっている団体「荒浜のめぐみキッチン」が、かつて「喜楽」という店名で仙台市内で活躍していた屋台を改修。沿岸部に賑わいを生み出す「動く」拠点として蘇らせました。「喜楽」が営業を始めた1956年当時、仙台では100台近くの屋台が軒を連ねていました。しかしながら、時代の荒波の中、数を減らしていき、2009年には「喜楽」も閉店してしまいました。「荒浜のめぐみキッチン」は、令和4年度若林区まちづくり活動助成事業に採用され、屋台修繕ワークショップを実施。「集まって語らう場」としての機能を活かし、若林区沿岸部で活動する方々を紹介する「移動型メディアスタジオ」として活用していきます。

荒浜のめぐみキッチン
（詳細はホームページをご覧下さい）
https://arahamano-megumi.kitchen/

若林区まちづくり協議会
事務局
若林区役所まちづくり推進課内
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1
TEL 282-1111

会報プロジェクトメンバー
勝又久雄
西條芳郎
志子田喜恵子
菅原まゆみ
米倉正子

編集後記

こんなにマスク生活が続くとは、思ってもみませんでした。長引くコロナ禍の中で、当協議会の事業も中止や縮小を余儀なくされてきましたが、ようやく3年ぶりに全事業が行われました。実際に「会えた」喜びは、この会報の記事にあふれています。まだまだ感染対策には気を抜けませんが、三密を避けながらも、心の「密」は深めていきたいものですね。（米倉）

会えてうれしい！

令和４年度　活動報告

世の中は、少しずつ動き始めました。当協議会事業も、3年ぶりに開催された“合唱のつどい”を皮切りに、“ふるさとまつり”も、大勢の区民のみなさんが会場に足を運ぶことができるものとなりました。実際に「会えた」ことが、なんと嬉しかったことか！

感染症拡大防止に取り組みながら行われた、今年度の事業をご紹介します。

ラヂオはいらいん若林

まちづくり懇談会＆ラジオ公開録音

11月26日、せんだい3.11メモリアル交流館で、「変わりゆく仙台沿岸部のまちづくりについて多様な立場の人が介在するまちづくりの在り方を考える」というテーマで、沿岸部で活動をしている方々を招き、懇談会が行われました。(一般社団法人みやぎ連携復興センターと共催)

この模様は、12月の「ラヂオはいらいん若林」で、2回にわたって放送されました。

この懇談会のパネラーは、5つの分野から集まり、それぞれの活動内容を発表した後、若林区沿岸部の魅力やそれをどう発信するかなどを出し合い、これからの沿岸部の可能性を語り合いました。

パネラー紹介（写真左から）

■事業者／「仙台アクアイグニス」
支配人　平間　雅孝 さん
■農　業／「あぐりる農園」　代　表　小倉　真紀 さん
■市民活動／「わたしのふるさとプロジェクト」
代　表　大内　文春 さん
■行　政／「若林区海浜エリア活性化企画室」
室　長　東浦　佳則 さん
■女　性／「東六郷・東部かあちゃんず」(メッセージ参加)

沿岸部の良いところと言ったら、誰もが口をそろえて、自然の美しさ、そこに暮らす人々のたくましさを挙げていました。「東日本大震災の記憶」を伝える役目も持ちながら、「近くにある田舎」を楽しむことができる場として、もっともっと多くの人に訪れてほしいものです。企業・若者・市民・行政それぞれがお互いに持てる力を発揮し、連携していくことで、いろいろな人やモノが繋がり、より住みやすいまちづくりへと発展する可能性を、この懇談会から感じることができました。

令和5年度 若林区まちづくり協議会の行事予定

4・5月	役員会・総会	8～11月	若林区 スポ・レク・フェスタ
7月	若林区合唱のつどい（第1土曜日）	10月	若林区民ふるさとまつり
7～翌3月	76.2MHz　ラジオ3にて 第1～4土曜日の午前10時～ 「ラヂオはいらいん若林」放送 ※インターネットで放送を聴くこともできます。（リスラジまたはラジオ3ホームページ）	2月	若林区 まちづくり交流会
		3月	会報「はいらいん若林（vol.27）」発行

※詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。
http://www.city.sendai.jp/waka-katsudo/wakabayashiku/machizukuri/kyogikai/index.html

若林わくドキ!!まち歩き

今年度の「まち歩き」は、コロナの影響を考えて2回の開催としました。若林区の「まち歩き」への期待や関心は年々増し、申込者は、他区からの申し込みの数が当区より多くなっています。若林区の皆さんに多く参加していただきたいのですが、他区の方に若林区の「良いところ」を見ていただくことも大切なことと思います。

春の新寺近辺の桜とお寺を尋ねる「まち歩き」では、西大立目祥子さん(ライター)のガイドで、新寺の咲き始めた桜を愛でながら、隠れた歴史をお話しいただきました。寺院毎に異なる桜の花に感激しながらの歩きは、圧巻で、時間がもう少し欲しいくらいでした。絶好の桜日和で、参加者全員が大満足の「まち歩き」になりました。

9月は、仙台藩の経済発展を支えた「貞山堀」を訪ねました。今回はバスを使い、荒井駅をスタートし、閖上の河口の堰を見学して「冒険広場」「荒浜海岸」を訪ねました。講師に大和田雅人さん（「貞山堀に風そよぐ」著者）をお迎えしての奥深い説明に、参加者は大いに納得し、夏の名残りの貞山堀と荒浜の海岸を後にしました。

2回ともこの上ない晴天に恵まれ、若林区の良さを知ってもらう良い「まち歩き」になりました。

スポ・レク・フェスタ実行委員会

スポ・レク・フェスタ実行委員会は、平成11年にスポーツ・レクリエーション部会が発足したのが始まりです。当初は仙台市の事業でしたが、3年で終了となりました。しかし、若林区は、大会参加者・大会役員の熱意により、若林区民ふるさとまつり実行委員会の一つの班として活動することになりました。ふるさとまつりでは、リサイクルステーションを担当し、ごみの分別・減量化・減容化に努めています。令和3年はふるさとまつりがオンライン開催となり、「スポ・レク・フェスタ2021」も開催することができましたが、コロナ禍のため、6種目が中止になりました。令和4年は、コロナ禍でも、9月のミニテニス大会のみ中止で、多くの大会が開催されました。リサイクルステーションは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスク・使い捨て手袋・使い捨てエプロンを着用しての作業となりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

スポ・レク・フェスタ班　班長　堀江新一郎

合唱のつどい

ひびけ若林の空に！ とどけみんなの心に！

7月2日(土)、「第29回若林区合唱のつどい」が、「合唱連盟わかばやし」加盟の14の合唱サークルや小・中・高等学校の合唱部、公募によって結成された区民合唱団の参加で、3年ぶりに若林区文化センターで開催されました。小学生から中高生、シニアに至るまでの発表から、「歌いたい」という熱意が強く伝わり、元気いっぱいのパフォーマンスや、渋い男声合唱、マスク越しでも美しいハーモニーに、会場全体が温かい空気に包まれました。

いつもなら、プログラム最後の全体合唱で、会場一体になった歌声が響くところですが、今年度はまだ感染拡大防止を意識して、客席では心の中で歌うということになってしまったのが残念でなりません。しかしながら、発表の場があるという喜びは大きく、コロナ禍で思うように練習できずに今回の参加をあきらめたという方も、「来年は絶対ここで歌いたい」と目をキラキラさせていました。

第34回 若林区民ふるさとまつり

10月16日、「第34回若林区民ふるさとまつり」が開催されました。

今回のテーマは「会いたいね」。3年ぶりの現地開催で、天候にも恵まれ、たくさんの人で賑わいました。

特に目立ったのは子ども連れのご家族。「はたらく車」に触れるのを楽しみに訪れたお子さんも多かったようです。「パトカーを見に来たの」と元気よく教えてくれたお子さんもいました。

ステージは様々なパフォーマンスやお楽しみ抽選会で盛り上がり、若林区文化センターで行われた「わたしの作品展」等にも大勢の人が訪れました。特に「若林消防団階子乗り隊」の演技は見事で、皆一様に上を見上げて華麗な技に見入っていました。染物や彫金の「弟子入り体験」も各回が定員に達し、若林区の豊かな食や文化、人に触れることができた、まさに「会いたい」ものに会えた一日でした。例えマスクをしていても、笑顔があふれているのがはっきりわかる一日となりました。まつり会場では、皆さまに「鎮魂の折鶴」を折っていただきました。

まつりの写真や「鎮魂の折鶴」は、12月に区役所ロビーに展示されました

皆さ～ん!!

「第34回若林区民ふるさとまつり」楽しんで頂けましたか～？

昨年は「オンライン」の形でしたが、皆さんに楽しんで頂きたい、笑顔に会いたいとの思いで、3年ぶりに区役所特設会場での開催としました。テーマも、ズバリ「会いたいね」。

3年ぶりの開催とあって、殆どの企画を一から精査し、見直しから始めました。常に感染症対策を念頭に、関係される方々、そして、来場される皆さんの安全を考慮しながら進めてまいりました。以前と比較して、規模は縮小しましたが、その分会場にゆとりを作り、新しい企画等も取り入れて、遜色のない「ふるさとまつり」に仕上げることができたと思います。何よりも、「若林区」の特徴である、各団体の多くのお手伝いやボランティアの方々の活動で、大いに盛上げて頂き、感謝しております。大勢の方々のご協力で成り立っている「若林区の風物詩」を大事に育てていかなければと、思いを新たにしました。

関係された皆さま方、各団体の方々に改めて感謝申し上げます。大変ありがとうございましたm(__)m

皆さん！また会いましょう!!　(^^)/

若林区民ふるさとまつり実行委員長　佐藤康浩